日本歴史学協会
若手研究者問題ウェブ・アンケート
最終報告＆討論会
～若手研究者問題の解決に向けた提言を考える～

大学院生の立場

日本歴史学協会
若手研究者問題特別委員会
浅田進史

1　回答者のプロフィール

●大学院生回答者84名、男性54名（64.3%）、女性30名（35.7%）

→2015年度版『学校基本調査』大学院生の男女比とほぼ同じ

●専門の地域と時代：

日本史が半数、ヨーロッパ史2割、

中国・朝鮮ほかアジア史2割弱

近代＞現代＞近世＞中世＞古代

1　回答者のプロフィール

●年齢：男性　25～34歳＝7割

女性　24歳以下＝4割弱、25～34歳＝5割

※女性に修士課程の回答者が多い

●所属の大学院の種別・地域：

国立5：私立4

東京5：近畿2：ほか3

※2015年度『学校基本調査』：博士課程院生の7割は私立

2　大学院生活の満足度

●指導教員の指導内容：回答者の8割近くが満足感

※修士課程：指導教員の指導内容、研究室・研究科の雰囲気←満足度がやや低い

◎進学の理由

＝専門知識の獲得が95%＞研究者志望が67%

専門職、中学校・高校教員の進路希望＝3割

←この部分にも対応するカリキュラムの必要性

※オーバードクター：カリキュラムへの低い満足度

2　大学院生活の満足度

●経済的サポート＝全体の7割が不満
※とくに修士課程とオーバードクターの8割が不満
博士課程では評価が二分

●そのほか：
私立の大学院の満足度が全般的に低い傾向
経済的サポートを除けば、中部地方の満足度が高い
←その理由？

3　研究を進める上での困難

●経済面＝回答者の8割が文献購入、また7割弱が調査資金について困難を感じる

➢地域間格差：

文献購入ではとくに北海道・東北地方、近畿地方、九州地方で困難を感じる割合が高く、

調査資金では近畿地方、九州地方、中部地方で困難を感じる割合が高い

研究費の私費への依存度

中部地方、北海道・東北地方が高い

3　研究を進める上での困難

- 修士課程：6割強が研究時間の確保、
  同じ専門分野との交流で困難を感じる
  ※週当たりの平均の研究時間33時間
- 大学院生女性：研究時間の確保に困難
  ※平均値で男性より7時間少ない
  複合的な要因：研究費の私費の依存の高さ、外部資金の割合の低さ、週当たり労働時間の多い層に回答者の割合が高い、男性に比べて所得が低い、給付型奨学金よりも貸与型奨学金に女性が多い

3　研究を進める上での困難

➢私立の大学院生の週平均労働時間の多さ:

約22時間　1日5～6時間労働を週4日

※国公立の大学院生＝週平均約13時間

労働時間の多い層と少ない層に二分化

✓ポイント:研究費の私費依存、週平均労働時間の長さ、

研究時間の確保の困難

＝「孤立化」を避け、若手を支える取り組みの必要性

4　ハラスメント

●セクハラ：女性の16.7%が直接経験
間接経験は男女とも4割超

●パワハラ、アカハラ：
女性の4割弱が直接経験
男性も1／4が直接経験
間接経験は男女で6割前後

4　ハラスメント

●自由記述：

セクハラ：同年代で強く感じる

パワハラ・アカハラ：同じ大学出身の年長者による

若い院生・ポスドクへの学会運営の指示

「同じ大学間で回し」「断る雰囲気が醸成されにくい」

ガイドラインの策定、実態調査、相談・報告窓口の設置の

要望

←歴史学界でもガイドラインの策定など積極的な取り組みを

5　ワーク・ライフ・バランス

●世帯形成、子どもをもつこと:

男性の6割以上、女性の5割が困難を感じる

※出産・育児では女性の7割弱、

男性の3～4割が困難を感じる

◎大学院生層＝20台後半～30台後半

←大学院生層の世帯形成、子育ての環境整備

6　学会への要望

- 就職の困難と雇用条件の悪化、学会の取り組みの必要性について強く肯定
- 自由記述：院生をボランティアとして使うことへの疑問、学会の細分化による週末での学会の重複、査読の迅速化、投稿論文への報酬、新設学科に公募する際のレクチャーの要望、非常勤講師の公募、派閥・学閥への問題（「派閥に入らない……者を叩く構造」）、TAの学内勤務条件の制限緩和の要望、図書館アルバイトなどの要望

←院生と学会のコミュニケーションの場の必要性

具体的な問題への解決のために学会間の情報共有・連絡

7　提言まとめ

- ✓とくに修士課程、オーバードクター、大学院生女性、地域間格差、私立大学院生のカリキュラム、経済面など多様なサポートのあり方の検討
- ✓セクハラ、パワハラ・アカハラへの制度的対策
- ✓大学院生の子育て環境の整備
- ✓院生と学会のコミュニケーションの場の必要性
- ✓具体的な問題への解決に向けた学会間の情報共有・連絡体制を